



本所
出張
員
田
賀
平
成
19
年
11
月
20
日

号
者
局
任
務
72
行
第
72
号

避難所開設願末記

系字 池田良夫

今年の九月六日から七日にかけて、日本列島を縦断した台風九号は、各地に多大な被害をもたらしました。全国にテレビ放映された二子玉川小学校の避難所の開設は、正にこの集中豪雨の成せる出来事でした。

地球温暖化の影響で、近來各地で異常気象が発生、集中豪雨の雨量も、気象台発足以来の記録を更新しています。

奥多摩の小河内観測所では、降り始めからの雨量が観測史上最大の七一〇ミリを記録、多摩川の水位も刻々と上昇、石原水位観測所では戦後二番目の六・〇二メートル、はん盆危険水位超過のレベルに達しました。

玉川一丁目と三丁目の一部は、歴史的な背景により一級河川の堤外に住んでいます。この住民に危険が迫り、遂に「避難勧告」が出されました。

日頃は他人様の様に思っていた災害が、身近に迫り来る瞬間でした。



生活弱者をいかに守るか

金子倉一

民生児童委員は現在、災害時一人も見逃さない運動を行っています。用賀地区（玉川、瀬田、用賀、上用賀）も皆様の協力を頂き、災害時にはいち早く弱者の所在確認が出来るよう、全地域地図を作製中です。その地図を町会、民生児童委員の代表者が保管し、災害時には、横のつながりを深め、見守り、身の安全を皆で実現して行ければと思っています。

又、皆様に大変係わりのある用賀地区社会福祉協議会の立ち上げを準備中です。地域毎のきめ細かい福祉活動にも、併せてご支援ご協力をお願い致します。

まちの安全について

白井常祥

東京オリンピック開催で周辺道路が整備され、瀬田にも環八が完成し町が分断、環境が大きく変貌しました。人の流れも変わり、時代と共に希薄となり地域の情報も流れ離れ傾向にあるかと思えます。

町会として犯罪防止は地域情報の一環も早い周知、一策として町会掲示板を増設し、犯罪を未然に防ぎ、更に地域住民が相互に問題を共有出来ようという計画いたしております。

縁あってこの町に暮らし、生きている人々のなかに、共生する心が芽生えてくるような町づくりが必要であろうと考えます。

まちの安全

町の安全 地震

高橋敏彦

地震の多い日本に住んでいる私達は、いつ起きかわからない地震発生直後の、まだ消防や警察など公的な救援が十分でない時、まずは自分の身は自分で守る。

近隣住民が自分達の町は自分達で守る。とりわけ災害弱者（高齢者・子供）のケアをする事が必要である。

実際に地震が発生した時のために、防災訓練に積極的に参加をし、いざという時の心構えを身につけておきたい。

非常持ち出し品の準備や住宅の耐震補強及び家具類の転倒防止を行い、安心出来る町づくりをしていくことです。

（用賀町会防災部副部長）

校町小の防災教室

中田 誠

十月二十日に校町小学校で防災教室が行われました。体育館では、地域の方やPTA、教員を対象に避難所運営についての研修会。

校庭等では、煙中体験、初期消火、ロープワーク、救命救急法、通報訓練、ポンプ車の展示、備蓄倉庫の紹介などを行いました。

当日は、児童、保護者も含め、二百五十名ほどの参加がありました。

今後、大きな地震が起きることが考えられます。自分達の身は自分達で守れるように、日頃からの備えと、地域の方とのコミュニケーションを大切にしたいものです。



木洩れ日

飯田恭次

砦公園の木々や街路樹の葉が秋の夕日に照らされて、美しい姿を見せています。

三日前の古新聞、人の噂も七十五日、石の上にも三年、十年一昔……と時の流れを表す言葉は色々ありますが、今年は統一地方選挙に参院選、加えて秋に政局が大きく動いた為、殊の外、一年が早く過ぎ行く様です。

昨年の秋、戦後生まれ初の宰相誕生と云う事で、颯爽と登場した安倍政権は政治資金問題、年金処理問題、外交課題等、次々と荒波を受け、九月総辞職。

その後継争いは保守本流福田、麻生の一騎打、結果は福田康夫氏が勝利を収め、初代父子二代に亘る総理大臣就任となった。

「相続」と云うと、如何に親が子に財産を譲るか、と個人的金銭的側面ばかりが強調されがちですが、政権の相続、国家の相続、人間社会の相続と視野を本けて行くと、この世の中に如何に次の時代、世代に引き継いで行くか云う大きな課題になります。

国際社会での資源、環境、食糧問題等々は国境を越えての取り組みが必要で、一方、私たちは安全で住み良い、町の相続を忘れてはならないと思います。



郷土紹介

多摩川の江戸小紋

郷土史会 会長 池田良夫

多摩川の河畔には、伝統の江戸小紋を伝える染物工場があり、東京都の無形文化財を守る為に指定された「東京都伝統工芸師」の方々が現在も活躍している。江戸小紋とは、特殊な型紙を使い連続模様を染める技術で、その美しさは世界に誇る日本独自の物である。そのパターンは永年の蓄積から多種多様に広がり、基本的な図柄の他、工場秘蔵の型紙まで五百とか千種に及び、各工場や職人の財産として大切に保管されている。

連続した模様のデザインは、最近のバリコレクショ

誇りある創立五十年

用賀小学校校長 内藤 信

「富士山のように気高く清くあれ。大志を持って、若竹のようにすくすく伸びよ。三角山の三角は、「知」「健康」「愛」をあらわし、考え深く、健やかで、心の優しいあたたかな人間に育ってほしいとの願いが込められていたのです。」



校章の由来に記されている創立当時の方々の熱い思いが今に生かされています。

本年、創立五十周年を迎えるにあたって、地元協賛会・同窓会・旧職員会・保護者の方々の絶大なるご支援の中に感謝申し上げます。昭和三十年当時、京西小の児童数増加による二部授業解消のため、分校建設に

ンにも登場して、そのシリアルな美の極致は、世界的にも注目されている。

これらの技術の中には、江戸幕府の贅沢禁止令により、袴の着用が単色に制限された時、見た目には普通の染めであるのに、光線の具合や角度の微妙な違いで別の模様が浮かぶように工夫された、いわば隠れた費沢が流行し、型紙を作る型師の技術が画期的に進歩したとも伝えられる。

五川一丁目在住の橋本織九氏の父、故六郎氏の作品は、江戸東京博物館に展示されている。

地元の伝統文化をぜひ見直してほしいと思います。



奔走して下さった方々の情熱がそもそもの始まりです。

そして、世田谷区立用賀小学校として喜びの独立が昭和三十三年のことでした。同年の十月に実施された、開校記念式典の地蔵・保護者の方々のお顔は満面の笑みに溢れておりました。

開校当時の写真の一枚に

建築中の校舎の前で、

大空にひるがえる鯉の

ぼりを見つめている子

どもたちが写っています。

学校の初節句を祝い、五

月晴れの空に悠々と泳ぐ鯉

のぼりは、当時のまちなか

の喜びの思いをのせての

空中遊泳だったのです。

昔も今も、用賀小学校の

財産が「人」であることを

誇りに思っています。



私のふるさとアモル

用賀町 吉成ナヒド

私のふるすとはイランの北、カスピ海の所にある、アモルという町です。

イランの首都テヘランは緑が少なく乾燥した気候ですが、アモルは緑がいっぱいでお米が採れる所です。イランのお米は日本のお米と違って、長くてパラパラしているの、日本のお米に慣れるのに時間がかかりましたが、今では故郷に帰った時に日本のお米を食べたくなります。

今、日本で有名な私の故郷のカスピ海ヨーグルトは各家庭で作っています。

イランでは、ほとんどそのまますべますが、塩と胡椒を振ったり、ネギとキヌ

清掃車の火災発生

五川清掃事務所より

清掃車の火災は23区内で年間100件を超えます。この10月にも、五川地域で清掃車の火災が発生しました。

清掃車火災の原因トップ3

①スプレー缶

②カセットボンベ

③ライター

スプレー缶やカセットボンベなど、ガスが残っていると清掃車の中でガスが漏れ、静電気や火花で清掃車の火災になることがあります。

スプレー缶などを振って「シヤカシヤカ」と音がするときは、まだ中身のガスが残っています。

必ず使い切ってから、不燃ごみで出して下さい。



わが故郷

ウリとレーズンを入れて食べることもあります。

私の故郷の産物でもうひとつ有名なのがキヌアですが、さすがに高価なため、皆たまにしか食べません。

日本に来て、東京の夏はジメジメして大変ですけれど、私の故郷アモルの夏は東京と似ています。

暑くてジメジメしています。食物も日本と似ている所があり果物ではみかんの事を「おんしゅ」(温州)と呼んだりもし

すし、他の果物や野菜も日本とほとんど変わりません。

東京は気候も食物も故郷に似ているので慣れるのにそれほど苦労はしませんが、やはり故郷が恋しくなる時もあり、一年に一度は帰っています。

平成七年阪神淡路大震災、十六年新潟県中越地震、そして今年には能登半島地震、新潟県中越沖地震とたて続けに巨大地震が発生しました。また九月には台風九号が上陸し、大きな被害をもたらしました。



災害は忘れないうちにもやって来るのです。こうした自然の猛威に私たちはどう立ち向かってゆけばよいのでしょうか。

十月から緊急警報システムが実用化されました。また台風については、リアルタイムで放送されています。私たちはこうした情報を活用し、少しでも減災に努めたいものです。(高橋 佳)